

# 外かべ・塀

旧くなった塗膜の塗り替え



コンクリート  
モルタル  
スレート  
ブロック塀

水性  
アクリルシリコン樹脂に  
HALS(紫外線劣化防止剤)配合  
で紫外線に強く、汚れに強い

水性  
色数豊富な59色。応用塗  
で、容量の種類も豊富だから  
様々なニーズに使えます。

水性  
風化した下地を押さえ  
上塗り塗料の密着性、  
耐久性を高めます



## スケジュールを決めましょう

外かべ<30㎡>の場合

工程	使用材料	塗布量(L/㎡)	塗り重ね可能時間(夏期)	理想の人数と時間
1 目	洗浄	—	—	2人 15分
2 目	下地処理	ワイヤーブラシ皮スキ サンドペーパー	サンドペーパー#180~#240	1人 30分
	下塗り	水性下塗剤 (傷みが激しい場合は油性下塗剤)	0.8~0.14	3時間以上 1人 30分
	マスキング	マスキングテープ マスキナー	—	— 2人 20分
	上塗り1回	水性アクリル シリコン外かべ	0.12	4時間以上 2人 30分
	上塗り2回	水性アクリル シリコン外かべ	0.12	— 2人 30分



作業人数の目安とは  
その作業の難易度、作業性に  
相当する理想的な人数の目安  
です。例えば2人で行う作業を  
3人で行った場合、より効率的  
に進められるといえます。

■<水性アクリルシリコン外かべ>の  
標準塗り面積 (2回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
1.6L	6~8	約4
7L	25~35	約20
14L	50~70	約40

■<オールマイティーネオ>の  
標準塗り面積 (1回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
1.6L	10~15	約8
3L	19~28	約14
7L	50~70	35~45
14L	100~140	70~90

■<水性下塗剤>の  
標準塗り面積 (1回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
0.7L	5~8	約4
4L	28~46	17~28
7L	50~80	31~49
14L	100~160	61~97

## <塗料と養生用品の必要量>

水性アクリルシリコン外かべは2回塗りです

水性アクリルシリコン外かべで、  
<10m×1m×3面>の外かべを2回塗りする場合

塗装面積  
約30㎡

●水性アクリルシリコン外かべ/  
ミルクィホワイト



7L...1缶



●マスキング  
テープ  
18m巻: 1巻



●マスキナー  
18m巻: 1巻



◀凹凸が大きい場合  
は、平滑な面より塗料  
を多く使用しますので  
表面積だけでは判断  
できません。

塗装中に足りなくならないように少し余分  
に用意した方がよいでしょう。

## 使用する道具

☑ 買い忘れがないかチェックを! 塗装用具は作業する人数分用意しましょう。作業効率もあがります。

### 塗装用具

水性用か  
万能用をお選び  
ください

広い面が効率的に塗れ、  
仕上がりがきれいです

☐ ハケ(本)

☐ ローラー  
(本)

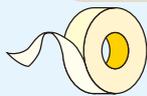
ローラーバケ  
を使用する場合は  
塗り皿やバケッ  
が必要で

☐ ローラーバケッ  
塗り皿(個)

☐ かくはん棒

### 養生

塗料のはみ出しを防ぐ  
ために使います。



☐ マスキング  
テープ  
( )巻き

マスキナーはテープとポリ  
シートが一体となっており  
広範囲を保護できます



☐ マスキナー  
( )巻き

[新聞紙]



☐ ポリシート  
(枚)

### 清掃・サンディング

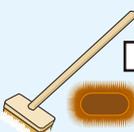
表面が平らな面をサンドペー  
パーがけする場合はサンディ  
ングブロックが便利です

☐ 皮スキ  
☐ ワイヤブラシ

☐ サンドペーパー  
(枚)

ひび割れくぼみがある場合  
☐ パテシーリング材

必ず塗料の上塗りができる  
ものをお選びください



☐ デッキブラシ  
☐ たわし

☐ 雑巾・  
ウエス



☐ 手袋(双)

汚れてもよい服装で作業をしましょう



\*手袋の着用も忘れずに..



塗装は気温の低い日避け、好天の日に行ってください。

雨の日(雨が降りそうな時)や気温5℃以下、湿度85%以上の時の塗装は避けてください。

## ① 下地処理 まずは表面の状態を確かめましょう!

### ● 汚れの除去...

<主な汚れの種類>



泥や苔、藻による汚れやチョーキング\*により粉っぽくなった表面は、タワシやデッキブラシ等で落としよく水洗いをしてください。雨じみ等落ちにくい汚れは、完全に落としきれなくても出来るだけ落としてください。洗浄は表面の粉っぽさがなくなったらOKです。

水洗い後は十分に乾燥させてください。(塗装前日までに水洗いを終わらしましょう)

\*チョーキングとは塗膜の表面が粉っぽくなっている状態を指しています。表面を手でこすり、白い粉が付くかどうか確認してください。

全体的に塗膜の痛みが激しく、粉っぽさがとれない場合は<水性下塗剤>で下地を押さえてください。<水性下塗剤>を塗ると下地を押さえるだけでなく、上塗り塗料との密着性も上がります。



<水性下塗剤>

### ● 古い塗膜が浮き上がっている場合の対処...



傷んで浮き上がっている塗膜はワイヤーブラシや皮スキで削り落とし、最後にサンドペーパー(#240程度)をかけて、出来る限り取り除いてください。取り除いた箇所は予め<水性下塗剤>を塗ってください。しっかり密着している箇所は取り除く必要はありません。

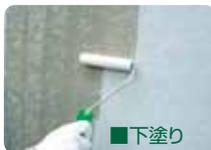
### ● ヒビ割れやくぼみがある場合の対処...



塗料の上塗りができるシーリング材で補修しましょう。まずは両側にマスキングテープを貼ってはみ出しを防ぎ、シーリング材をつめこんでいきます。それから余分なシーリング材をヘラなどで削ぎ落とします。**必ず塗料の上塗りが可能な乾燥時間をとってください。**

### ● コンクリート素地に塗る場合

コンクリート素地に塗る場合は、吸い込みを防いで、上塗り塗料の密着性を高めるために、予め<水性下塗剤>を塗布しておいた方がよいでしょう。



■下塗り



■上塗り



<油性下塗剤>

下地のコンクリートが劣化し、傷みが激しい場合は<油性下塗剤>をお使いください。



既に塗料が塗っている場合は「油性下塗剤」は適しません。

## ② はみ出しや汚れを防ぐ為の処理 マスキング(養生)

塗りにたくない部分や塗料が付着すると困る部分には必ずマスキングテープを貼ってください。マスキングテープを貼る時は、きわの部分をしっかり押さえてください。また、マスキングテープは、幅の広いものをおすすめします。床面には、新聞紙やビニルシート等を敷き保護すると塗装時の汚れが防げます。



鉄柵は根元の部分にマスキングテープを巻いて保護しましょう。

テープとビニルシートが一体化になった「マスキナー」は広範囲に養生ができるので便利です。



●マスキナー



まずはテープ部分をはみ出しでは困る部分に貼り...



貼り終わったら折りたたんであるビニルシートを広げてください。

### ③ 塗料をかき混ぜる

**!** 塗料は中身をよくかき混ぜてからご使用ください

塗料は様々な原料から成る混合物のため、一部色の粉が沈んでいることがあります。容器を振らないでフタを開けたときは、色が違うように見えるのはこれが原因です。

フタが小さい

大缶<7L・14L>の場合

大缶<7L・14L>も同様に、容器を逆さにして振りますが、重たいので一辺を床面につけて支点とし前後に充分に振ってください。

天面を缶切り等で開け、ヘラ等で底から充分にかき混ぜてください。



1 フタを開ける前に容器を逆さにして振ってください。



2 フタに手をそえてマイナスドライバー等で開けます



3 容器の底にドロっとした固まりがなくなるまでヘラなどで、よくかき混ぜます。



\*重たいので取扱いには充分注意してください。



● 塗料は使う分だけ別の容器や塗り皿に移し替えましょう

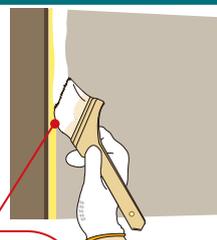
うすめた塗料は保存ができなくなりますので、使う分だけ小分けしてうすめてください。

### ④ 塗る

■ 隅や塗りにくい箇所を先に塗りましょう



まず、塀の天面や端（塗らない部分との境目等）の部分など塗りにくい箇所からスジカイバケを使って塗っていきましょう。



隅を塗る時は、ハケを縦に使うと塗りやすいです。塗る場所に応じ角度をかえて使いましょう

■ 広い面はローラーバケを使って塗りましょう



ローラーバケは、広い面積を効率的に塗れる便利な塗装用具です。また、均等に力が伝わりやすいのでムラになりにくく、きれいに仕上げることができます。

上から下にゆっくり動かして予め塗料を配り、その後ムラにならないよう気をつけながら軽く、上下にならしていきましょう。勢いよく転がすと塗料が飛び散ることがありますので注意してください。

**!** ご注意ください。

塗り残り



凹部に塗料が入りきらず塗れていない部分が残る

タレ



厚く塗り過ぎるとタレてしまいます。タレてしまったら、すぐにローラーバケで伸ばしてください。



タレを防ぐために余分な塗料はバケツで軽くこいてください



ローラーバケを選ぶポイント

毛の長さの違うローラーバケを使い分けましょう



● 中毛ローラー

毛の長さ: 10~15mm

塗る面に凹凸がある場合は、凹部に塗料が入りやすい中毛タイプがおすすめです。



● 短毛ローラー

毛の長さ: 9mm以下

平らな面は、短毛ローラーの方が余分な塗料が付かないのでキレイに仕上がります。

今回は「中毛」タイプのローラーバケを使用しました

● 粘度が高く、塗りにくいと感じたら...

水性アクリルシリコン外かべ用は、通常うすめないで塗れる仕様にはなっていますが、粘度が高く塗りにくいと感じたらうすめてください。

水性塗料の場合

[うすめ液]...水

\*水性なので水でうすめられます。

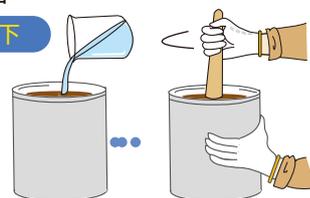
[うすめる目安]...塗料に対し5%(重量比)

\*うすめ過ぎると下地が透けるなどトラブルの原因となります。

[うすめる方法]...水を加え、塗料をよくかき混ぜる

\*1.6Lの場合

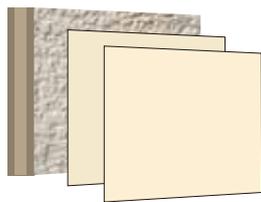
水:80ml以下



## 2回目を塗る

## 水性アクリルシリコン外かべは2回塗りです

1回塗り後、4時間以上の間隔を開け、表面を触って乾燥を確かめた後、2回目を塗ってください。



### 1回目と2回目の間隔は充分に

<水性アクリルシリコン外かべの場合>



夏期:4時間以上  
冬期:6時間以上

●塗装間隔は製品の標示にある乾燥時間とは異なります

「オールマイティーネオ」は通常1回塗りですが、初めて塗る方や慣れていない方は塗りムラ(厚い・うすい)が出てしまうことがあります。さらにキレイな仕上がりを目指すには2回塗りをおすすめします。

1度に2回塗り重ねることが「2回塗り」ではありません。1回目の塗装が終わって充分乾燥させてから2回目を塗ることを「2回塗り」といいます。

## 「補修塗りは乾いてから」が原則

塗装の途中で塗り残しやムラに気づいた時も、一度しっかり乾かしてから補修塗りをしましょう。乾く前に補修すると、半乾きの塗膜を引っ張って余計に仕上がりが悪くなってしまうことがあります。また、下地の吸い込みが止まっていない場合、ツヤが出ずにムラになってしまうことがあります。この場合も一度しっかり乾かしてから2回目を塗りましょう。

途中で気がついても…



慌てない!

## ⑤ あとしまつ



### ●マスキングをはずす

マスキングテープは、乾く前にはがしてください。乾燥した後はがすとマスキングテープと一緒に塗膜がめくれてしまう恐れがあります。塗膜がめくれてしまいそうな時は、境目に軽くカッターナイフで切れ目を入れてからはがしてください。床面に敷いた新聞紙等は汚れている面を内側にして丸めて捨てると周りを汚さずに処理できます。



2回塗りの場合は2回目の塗装の後にマスキングテープをはがします。(最終塗装が終了したらマスキングテープをはがします)

水性塗料は乾いてしまうと水に溶けなくなります。塗装後は乾く前に道具を洗きましょう。

古新聞やボロ布で余分な塗料を落とし、乾く前に水洗いをしてください。仕上げに住居用洗剤で洗ってすぐとよいでしょう。その後で水をよく拭き取り陰干ししてください。

### ●用具の手入れ



## 完成(イメージ)



■塗装前



■塗装後



## アトムサポート株式会社

本社 〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-9-6  
URL <http://www.atom-paint.co.jp>

お客様相談室

TEL 03-3969-7866

ホームページ  
はこちら